

公開原稿 ver2.5 (2021年5月24日作成)

## ヒト多段階発がん過程における宿主免疫の役割に関する研究

### 1. 研究の対象

国立がん研究センター中央病院で、1999年1月1日～2025年12月31日に外科切除・組織生検をされた患者さんの中で解析時に包括的同意が得られている患者さんを対象にします。外科切除にて採取された組織検体および生検検体の残余検体・病理診断報告書を含む診療録等の診療情報を研究に使用します。

### 2. 研究目的・方法

がんを解明するために、これまで形態学、分子生物学や遺伝学など様々な方向から先進の技術を導入して多くの研究が成されてきましたが、その大部分はがん細胞に焦点を当てたものでした。しかし、がんの解明には、がん細胞それ自身の解析のみならず、がん組織を構成しているがん細胞以外の組織、血管や免疫細胞等の細胞や構造物の重要性が近年益々認識されるようになってきています。以前から、免疫系ががんの発生や進行を抑制しているという学説と、また逆にがんの発生や進展を支援しているという報告もされており、その本質はいまだ解明されていません。そこでがんの発生から進行がんへと発達していく過程での宿主側(がんになった方の体)の免疫機構を理解することは、がんに対する新しい予防・診断・治療等の開発に役立つと考えられます。

本研究では肝胆膵領域がん、消化器がん、血液系腫瘍等のがんにおける、免疫の役割を理解し、その中から発がんリスクの評価・がんの早期診断・病態診断・予後予測・新たな治療の開発に役立つ知見の探索を行います。

診療の残余病理組織における免疫反応を分子病理学および免疫学的、糖鎖生物学的に検討します。本研究は、Johns Hopkins School of Medicine、産業技術総合研究所と国立がん研究センターとの共同研究です。

研究期間：20年間。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：診療後の手術で摘出した残余組織検体 等

情報：病歴、カルテ番号、年齢、イニシャル、等

### 4. 外部への試料・情報の提供・公表

共同研究機関との試料・資料・情報提供の際は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。試料の輸送は紛失リスクを最小化するために、輸送時に随時追跡可能であり、受け取り側の授受の確認が可能である、輸送方法を選択する。情報は電子的配信等をとることがある。

データの解析結果を論文としてしかるべき医学雑誌での公表、学会発表を実施します。

## 5. 研究組織

国立がん研究センター 平岡伸介

Johns Hopkins School of Medicine Junko Sawada

産業技術総合研究所 榎谷内晶

## 6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。

この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター中央病院 病理科 平岡伸介（研究責任者）

〒104-0045 中央区築地 5-1-1

TEL 03-3542-2511/ FAX 03-3248-2463

研究代表者

国立がん研究センター中央病院 平岡伸介